

1976年2月25日第三種郵便物認可（毎週4回月曜・火曜・木曜・金曜発行）
2009年2月26日発行 SSKO 通巻第7005号

SSKO

Drug Addiction Rehabilitation Center

DARC

Grow up!!

栃木ダルク

ニュースレター 第71号(2009, 3, 10)

施設移転献金のお礼

栃木DARC 代表 栗坪千明

昨年末の12月より、那須TCの施設の移転費用について支援者の皆様には無理なお願いをしまいましたが、あたたかいご支援を賜り無事2月6日に施設の移転が完了いたしました。その後も引き続き事務所の設備のための献金をお願いをしまいましたが、なんとか設備が整いました。通常支援のお願いはしてまいります。施設移転献金としては、ここで終了とさせていただきます。本当にありがとうございました。

今回のお願いで集まりました献金額は約90万円にものぼりました。

今後は那須TCも5ステージシステムを変更することなく、更なるプログラムの充実を図っていきますので、ご支援、ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。簡単ではありますが、まずは書面にてお礼に代えさせていただきます。



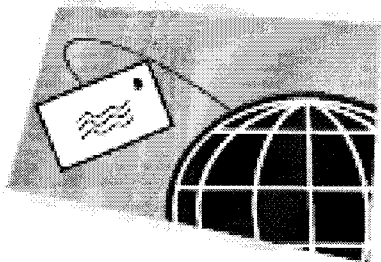
宇都宮 OP のプログラム

宇都宮 OP 栃原晋太郎

三寒四温とはよく言ったもので、ここ最近では暖かな陽気に包まれた翌日には雪が降ったりしています。それでも耳を澄まして、自然に目を向けてみると、ここ栃木県でも春が近づいていることを少しずつ感じられるようになってきました。栃木ダルクのメンバーは風邪をひいたりしながらも、新しい生き方を続けられるようになるために、過去を整理し、日々各々のプログラムを行っておりますが、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。今回は、栃木ダルクの2施設の中でも社会復帰施設としての役割をもっている宇都宮 OP についての現状をお伝えしたいと思います。

栃木ダルクが宇都宮に施設を出してから1月で3年の月日が流れましたが、社会復帰施設としての機能をはたし始めたのはごく最近のことです。最初のうちは人数も少なかったこともありますが、クリーンが長くなってきた仲間をアルバイトに出すというよりはプログラムを行う場所を那須から宇都宮に変えていくという目的が強かったこともあって、社会性を身につけるプログラムを行うことも抜けていましたし、私たちスタッフ自体が不安定だったことと、社会とどう繋がりをもっていけばいいのかも分からなかったもので、せっかくの宇都宮という地の利を活かすことが出来ませんでした。ですから、その当時にいたメンバーと本当に試行錯誤しながらルールを組み替えたり、代表から提案のあった新しいプログラムを実践してみたり。その中で問題点があれば修正し、また実施する・・・。繰り返し繰り返し塗り重ねているうちに今の宇都宮 OP・RH という形が出来上がったと思います。

今は12人の仲間が共同生活をしながら、社会復帰に向けてプログラムを行っていますが、そのうち6名の仲間がアルバイトに出ています。それとトレイニーやチーフ、マネージャーというスタッフ研修のような役割をやってくれている仲



間が3人、アルバイトに出る前に社会常識やある程度正常な人間関係を身につけるプログラムを行っている仲間が3人います。ある程度順調に全員が自立に向けて日々を送っているように思います。

プログラムとしては、社会性を身につける

ことを目的としたものが増えていますが、ボランティアをはじめとした地域との連携を重視したものも取り入れるようになってきました。薬物やアルコールを中心とした物質依存をしてきた仲間が回復や成長を考えると、ダルクという閉ざされた環境で断薬を続けていくことが初期には必要であるようにも思いますが、目的を社会復帰においた場合、どこかで勇気をもって社会との関わりを増やしていかななくてはならない気がします。ただその際には、本当に細心の注意が必要であることも事実ですよ。

自分たちが積み重ねてきた回復や成長がどの程度のものなのかを社会の中で人と交わることにより確認も出来ますが、挫折をし簡単に諦めてしまうキッカケになるかもしれない。だからこそ最初に出会う人達が重要なんじゃないかと思っていて。その時支えになってくれるのは、やはりダルクの支援者であり、教会関係者であり、ボランティアに従事しているような心に余裕がある人だと思うのです。

今は少しずつ温かい心の人たちの輪を宇都宮で広げているという感覚でいますが、徐々にですが確実に関わっていただける人も増えてきました。現在、毎週水曜日の午後に行っている栃木盲導犬センターでのボランティアもその中のひとつです。私たち依存症者が回復を目指すときに、動物と触れ合うことは心を取り戻すためにも重要です。職員の人たちと正常な距離感でつき合わせてもらえることによって人間関係をどれくらい近づけるのがいいのか勉強も出来ます。それにダルクという日常から離れた場所でプログラムを行えることで、精神的な居場所を増やすことにもなるようで、仲間たちに笑顔が増えたような気がします。作業としては、施設内外の掃除や折込作業と犬の散歩程度ですが、センターの職員の方々から毎回のように感謝される経験も貴重なものになっているようです。今ではイベントの際に栃木ダルクとしてお好み焼き屋さんを出させてもらえるようになりました。現在こういう関係を続けていくことを私たちスタッフの一番の目標にしています。

人と人との繋がりを持つとした時に傷つくことも確かにありますが、私はそれが怖くて逃げてきました。弱い人間だと認めたくなくて虚勢をはり、薬を使う

ことで更に人と関われなくなっていました。同



じことを繰り返さないように、無理はせず等身大の今の自分で仲間や皆様と関わって生きたいと思っています。

体験談

依存症のレオ

僕は中学校卒業してすぐに自動車板金塗装会社に就職して、夜は定時制に通いました。15歳の春に初めて給料を手にした時、嬉しくて学校を休み家に帰りました。早速給料袋を開けてみると15万くらい入っていました。15歳にしては大金です。でも嬉しいのもつかのまで、家に生活費を入れなければなりません。僕の小遣いは1万円ですが、それでも嬉しかった。食卓に鍋料理が出ると家族が明るくなるからです。ところがこの生活も長続きしませんでした。事故の後遺症で働けない父にホテルのパートへ出た母が離婚話を持ちかけたのです。母に仕事先で知り合った男性がいるとのことで、僕は大変ショックでした。その後母は家に帰ることはなく今も行方がわかりません。その頃から俺のお酒人生が始まった。仕事や学校があるから最初はたしなみ程度だったけど仕事も学校も半年で辞めて親父と酒を毎日飲むようになった。ところが親父が酒を飲まないと言いだしたので1人で飲むことにした。無職だった俺はバイトを紹介してもらい友達と同じスーパーで働くことになったが酒は毎日飲んだ。会社の宴会にも出席して飲んでいた。別に悪いと思わなくなっていた。昼休み外食に出た俺は偶然店長と同じ店に入ったが店長はビールを飲んでいた。気まずかったのか1杯だけ飲むかと俺にすすめられたがその時は断った。19歳になった俺は1年遅れで自動車学校に通い運転免許を手に入れたが貯金が底をつき車を買えないから仕事を夜勤に変えてみたら酒好きの仲間がいた。勿論酒を飲みながら仕事をしてた。車も手に入り飲みに行く機会も増えてきたがもちろん飲酒運転だ。1度取り消しになったが1年後に取得、まだこりてない。スナックにかよう可愛い女と飲みたいだけじゃないキスをしたり胸をもんだりエッチな話をしたり、この後外国人パブにはまった。そして、ついに入院しました。生まれて初めての病棟生活、最初はなかなか環境に馴染めず毎日が大変でした。そのころの自分はまだアルコール依存症という病気になっていないと思っていました。退屈な日々を6ヵ月過ぎるとケースワーカーからお兄さんから相談をうけてた施設に入れるという話だった。自分からすればとんでもない話だ。何で勝手に決めるんだと怒りが込上げてきた。俺は絶対行かないと何度も言った7ヶ月目に入ると今度は役所の人と施設の人ケースワーカー、兄貴で俺を説得しにきたのだ。これにはさすがの俺もお手上げだった諦めるしかなかった。素直に話を聞くことにしたら俺が施設に行くことに決まった。みんなホットした表情で正直困った。

みんなのホットした表情を見て「困ったのは俺だよ、やっとまた酒が飲めると

思っていたのに施設かよ。冗談じゃねえ」と毎日思うようになりました。いよいよ施設に行く日がきました。施設の方が向かいにきました。最後にケースワーカーの人が俺に恨まないでねと言い、今度来るときは外来できて施設のことをきかせてねと約束をしてその場を後にし、そのまま市役所にいき手続きをしました。その担当の方が「頑張ってね、お金の心配はしなくていいよ」といってくれました。みんなが俺を応援してくれてるんだなと思いました。でも行きたくない気持ちは変わりませんでした。ダルクに着くと仲間が何人かいました。輪になって漢字の検定をやっていました。待つこと半日、NA松ヶ峰教会だそうです。初めて教会に入りました。仲間が多数いました。最初に読み合わせをして次に司会者が話をしていたらいきなり俺を指名し・・・俺はパスした。いきなり指されても何を話しているのかまったく分からなかった。すると隣に座った仲間が何でも話せばいいんだよといってくれた。何だか嫌な気持ちになった。こんなの絶対いやだと思った。NAが終わって俺は那須の施設に向かった。施設に着くと山の中だった。部屋に入り横になりましたが、やっぱりくるんじゃ無かったと思いました。やっぱり病院のほうが良かった。頭の中がそれで一杯だった。早く出ようと考えてしまいなかなか寝れない次の日事務所にいき、出たい、戻りたいなどを言いに行った。もちろんだめ、次の日もいきましたが駄目でした。仲間の話を聞くと駅まで4時間30分歩いていく人もいるんだって、俺もお金貯めて出て行こうと思い貯金を始めたのです。3ヶ月が過ぎたころ、お金も貯まりましたが施設生活にも慣れてきたのです、それから仲間も「やめたほうがいいよ、9ヶ月まではいたほうがいいから」といってくれたのです。それから自分の考えかたが変わり始めたのです。自分は施設から逃げない、最後まで頑張ろうと思うようになりました。それから6ヶ月がたち施設内の役割も増え、そして9ヶ月が経ち宇都宮にいけるかなと思っていたら、なんとなんと 트레이ニーになっちゃった。何で俺なのか最初は戸惑いました。絶対無理出来ないと思っていた仕事だったから正直びっくりしています。最初に施設にきたときは仲間と話も出来なかったのに今では、しんじられないくらい回復し仲間のおかげです。今度は自分が助ける番です。これからは事務所の仕事もありますから大変ですけど、出来る限り頑張って生きたいと思っています、ここまで俺が出来るなんてハイヤーパワーかもしれない、もっともっとパワーがほしいから施設にいる仲間とこれからも回復していきたいと思っています。

3,4月予定表

- | | |
|-------|--------------------|
| 3月11日 | 菜の花家族会 |
| 3月11日 | 那須TC施設見学 |
| 3月13日 | 厚生労働省研究報告会 |
| 3月14日 | とちぎユースアドバイザー養成講座 |
| 3月25日 | 黒羽刑務所覚醒剤教育 |
| 3月29日 | 宇都宮家族会 |
| 4月1日 | 黒羽刑務所覚醒剤教育 |
| 4月7日 | アルコール関連問題研究会準備委員会 |
| 4月10日 | 喜連川社会復帰促進センター覚醒剤教育 |
| 4月15日 | 黒羽刑務所覚醒剤教育 |
| 4月19日 | 盲導犬ふれあいデー |

発行所
郵便番号一五七—〇〇七三 東京都世田谷区砧六—二六—二二
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

2月献金を下さった方々

吉田重信様、栃木ボランティア市民活動フォーラム2009実行委員会様
NPOライオポート那須ひとやすみの会様、福田澄夫様
水井清次様、半田久美様、川嶋陽子様

匿名6名様

2月献品を下された方々

樋口良二様、大串徹様、大島一夫様、ローランド・ピエル神父様

定価100円

編集

NPO 栃木DARC

〒320-0014

栃木県宇都宮市大曾 2-2-14 形松ビル 3F

TEL 028-650-5582 FAX 650-5597

URL <http://www.t-darc.com>

Eメール: nesm@t-darc.com